

評価室活動報告

年間 30 件の評価実績を目標に、コンペティションへの応募や、特別養護老人ホーム・認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護・保育所・障害者サービス事業所へ見積依頼用紙を郵送するなど、受注に向けたアピールを行っています。

《第三者評価の実績-2017年3月末》

事業種		件数
施設	特養	59
	養護老人ホーム・特定施設	2
在宅	通所介護	45
	訪問介護	15
	訪問看護	3
	居宅介護支援	11
	ショートステイ	2
地域密着	グループホーム	123
	小規模多機能	35
	定期巡回随時対応	5
障害	多機能型・就労継続支援B型	10
保育	保育所	48
養護	乳児院・児童養護	2
計		360

今年度は、主たる登録評価者 27 名でスタートしました。評価者は常に資質の向上を課せられており、評価推進機構で義務づけられた研修に加え、ひと・まち社では毎年独自の内部研修を行っています。取り上

げるテーマは評価者の希望に応じて選定して学びの機会にしています。今年度は、5月15日に大学講師経験のある評価者を講師に「保育所保育指針の改定」、6月1日にケアマネジャーを講師として「介護支援計画づくり」の研修を行いました。また、障害者サービス事業所の理解を深めるため、渋谷区にある多機能型事業所ストライドクラブの見学会を6月8日、23日に行いました。見学では、利用者に事業内容を説明してもらい、日課活動である食事づくり（細かく切り揃える、盛り付ける）の様子や書道などの作品を拝見し、皆さんと昼食を楽しみました。内部研修には延べ 20 名が参加し、スキルアップを図っています。



ユニット活動で毎日の昼食作り。今日は野菜たっぷりのカレー

第 16 回総会を終了しました

3月22日に開催した第16回総会は、11名の参加と5名の書面議決、16名の委任状ですべての議案が承認されました。

2016年度は、皆様のご協力により10月21日付で東京都より認定NPOの認定を受けることができました。また、第三者評価事業の実績は27件で、養護老人ホームや、社会的擁護関係施設評価機関として初めて児童養護施設の評価を実施しました。

2017年度は、日本郵便年賀寄附金の助成を受けて新総合事業に関する第2回調査報告書の作成、調査報告会を

開催し、第3回調査に向けた準備をすすめます。認定NPOは「1年間に3000円以上の寄付者100名以上」の基準を毎年クリアすることが必要です。これまでの経験を活かして調査活動や評価事業に取り組みますので、引き続きのご支援をお願い致します。

2016年度 活動計算書(1/1~12/31)

		(単位:円)	
科 目		金 額	
経常収益	受取会費	461,000	
	受取寄付金	517,996	
	第三者評価	11,721,360	
	調査・研究(情報発信)他	54,500	
	活動サポート・人材育成	155,892	
その他		87	12,910,835
経常費用	人件費	3,884,623	
	委託費	3,448,000	
	旅費交通費	838,776	
	通信運搬費	418,822	
	消耗品・事務用品費	232,735	
	印刷・広報費	595,268	
	家賃・水道光熱費	1,669,249	
	研修・図書費	54,600	
	租税公課	346,503	
	雑費	114,733	11,603,309
	その他	361,927	594,680
当期正味財産増減額		712,846	
前期繰越正味財産		-183,979	
次期繰越正味財産		528,867	

調査報告会のお知らせ

新総合事業に関する市民の意向調査・自治体調査第2回報告会

住民主体型サービスをつくり出す

堀越 栄子氏 (日本女子大学教授)

講演

日時

9/18 (月・祝) 13時半～16時

場所

快・決いい会議室 ホールB

新宿区歌舞伎町2丁目4-10 KDX 東新宿ビル3F
都営大江戸線・東京メトロ副都心線「東新宿駅」A1出口すぐ

資料代

1,000円

申込

認定NPO法人市民シンクタンクひと・まち社
FAX 03-6457-6202 mail:npo@hitomachi.org



編集後記：九州北部の記録的豪雨で、甚大な被害があった福岡・大分。熊本の災害に追い打ちをかけるような容赦ない自然の仕打ちに抗議のしようもない。拭っても拭っても泥にまみれ、延々と続く災害の後始末を思うと胸が痛む。今、自分にできることはと考える。同時に、地域の共助のしくみづくりなど、災害時への備えは平時にこそ必要と思う。(M)